

## 庄内川河川事務所開設50周年にあたって

庄内川河川事務所長 西 修

庄内川は、その源を岐阜県恵那市の夕立山に発し、岐阜県内では土岐川と呼ばれています。岐阜県内では土岐市や多治見市などの盆地を貫流し、愛知県内では日本最大のゼロメートル地帯である濃尾平野を流れ下った後に伊勢湾に注いでいる、幹川流路延長96km、流域面積1,010km<sup>2</sup>の一級河川です。下流域に中部圏最大の都市である名古屋市が位置することもあり、中部地域における社会・経済・文化の中心地域を流れている河川です。

庄内川の管理者は、時代によって国や県に代わってきましたが、昭和44年(1969年)に国の管理となってから今年で50年を迎えます。また、今年、土岐川が昭和49年に国の管理となってから45年。そして、小里川ダムが平成16年に管理を開始してから15年という節目の年となります。

この50年を振り返りますと、下流部においては引堤や堤防整備、名古屋市の公園整備と合わせた小田井遊水地の整備、そして平成12年9月東海豪雨による甚大な被害に対する河川激甚災害対策特別緊急事業や国道1号一色大橋の架替え等を実施してきました。中流部では、名古屋市守山区や春日井市の土地区画整理事業にあわせた堤防整備、平成23年9月洪水での名古屋市下志段味地区における堤防越水などによる浸水被害に対する堤防嵩上や河道掘削等の緊急対策などを実施してきました。土岐川においては、土岐津引堤や平和町引堤、平成11年6月洪水対応として土岐川河川災害復旧等関連緊急事業、更に平成23年9月洪水による甚大な被害の緊急対応として土岐川左岸浸水対策事業、そして小里川ダムの整備を実施してきました。

これら事業の実施により、治水安全度は大きく向上しましたが、いまだ庄内川・土岐川の洪水に対する安全度は決して高い状況とは言えません。現在、平成27年9月関東・東北豪雨を受け策定した『水防災意識社会 再構築ビジョン』における「洪水はん濫を未然に防ぐ対策」の一環として、緊急的な流下能力対策としての河道掘削を、また、『防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策』における「水害・土砂災害から命を守るインフラの強化」として樹木伐採・河道掘削、堤防強化等の事業を実施してきており、引き続き安全度の向上を図っていきます。また、「住民目線のソフト対策」として、流域市町と連携したタイムラインの策定等を推進していきます。

これまでの50年間の諸先輩方の功績や地域との関わりを引き継ぎながら、今後とも、国際中枢都市名古屋を含む日本最大のゼロメートル地帯および岐阜県東濃地方における、『人命被害ゼロ』『社会経済被害の最小化』を目指して、ハード・ソフト対策を一体的に進めていきます。地域の皆さんに愛される土岐川・庄内川を目指し、これからの50年に取り組んで参りますので、関係される皆さまの引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

平成31年4月